

山口 真希

専任講師

研 究 業 績

2021年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書 (分担執筆)	「第8章 障がいのある子どもの理解」『教育心理学—保育・学校現場をよりよくするために—』、嵯峨野書院、(石上 浩美、矢野 正、竹中 美香、池田 幸恭、芳田 茂樹、水野 正朗、高岡 昌子、室谷 雅美、宮前 佳子、竹内 和雄、阿部 海渡、鶴田 利郎、高橋 登)、69-77 頁	2016. 4
著書 (分担執筆)	「第7章 知的障害者に対する教育的支援」吉利宗久・是永かな子・大沼直樹編『新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて』培風館、64-74 頁	2016.11
著書 (分担執筆)	「子どもの育ちと障害にかかわる権利保障」『花園大学人権論集25 広がる隣人との距離—制度の狭間で見えなくなる困窮』批評社、花園大学人権教育研究センター編、194~222 頁	2018. 3
論文(単)	「知的障害児の数概念発達に関する研究展望」『奈良女子大学人間文化研究科年報』第26号、233-241 頁	2011. 3
論文(単)	「知的障害のある子どもの日常における均等配分行動の観察」『「発達・療育研究」京都国際社会福祉センター紀要』第27号、61-74 頁	2011.12
論文(単)	「幼児の均等配分行動に関する研究展望」『奈良女子大学人間文化研究科年報』第27号、147-156 頁	2012. 3
論文(単)	「均等配分と数概念の発達—知的障害のある子どもと定型発達児の研究から—」、博士論文(奈良女子大学大学院人間文化研究科)、1-130 頁	2012. 3
論文(単)	「知的障害児における数概念の発達と均等配分の方略」『日本発達心理学会 発達心理学研究』第23巻第2号、191-201 頁	2012. 6
論文(単)	「福井大学教職大学院における若手研究者教員の力量形成過程—コミュニティ内「言語」の実践的理解を軸に—」『福井大学教職大学院教職開発専攻紀要 教師教育研究』第6号、199-206 頁	2013. 6
論文(単)	「幼児期初期における数量認知の発達」『「発達・療育研究」京都国際社会福祉センター紀要』第32号、13-23 頁	2016.11

論文(単)	「特別支援教育における算数授業の展望」『福祉と人間科学』(花園大学社会福祉学会)第27号、63-69頁	2017.3
論文(単)	「幼児の数理解における発達的变化の過程—つまずきを見せる子どもの学習支援に向けて—」『「発達・療育研究」京都国際社会福祉センター紀要』第36号、京都国際社会福祉協力会、9頁-22頁	2020年12月
論文(共)	「役割遊びが苦手なH君とのプレイセラピー」『「発達・療育研究」京都国際社会福祉センター紀要』第28号、61-75頁	2012.12
論文(共)	「保育者養成課程の学生の実習履修動機」『花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要』第11号、23-29頁、花園大学心理カウンセリングセンター(小川恭子編、矢持九州王共著)	2017.2
論文(共)	「保育者養成課程の学生の実習体験と学業への態度の関連」、花園大学心理カウンセリングセンター、『花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要』第12号、(小川恭子編、矢持九州王共著)27-33頁	2018.2
論文(共)	「保育現場の管理職が考える保育の資質と養成段階で必要な学習」『「福祉と人間科学」花園大学社会福祉学会(年報)』第31号、花園大学社会福祉学会、17頁-24頁	2021年3月
学会発表(単)	「知的障害児のインフォーマル算数—均等配分・初期数概念課題から—」『第20回日本発達心理学会大会発表論文集』、97頁	2009.3
学会発表(単)	「幼児における均等配分行動と数概念の関係」『第21回日本発達心理学会大会発表論文集』、283頁	2010.3
学会発表(単)	「幼児期初期における基数原理理解と子どもの方略」『一般社団法人日本発達心理学会第32回大会 大会発表論文集』	2021年3月
その他(単)	「「人との関係に問題をもつ子どもたち：時計にこだわりのあるAさんと仲間とのかかわり」に対するコメント」『第67回発達臨床研究会雑誌 発達』第125号、ミネルヴァ書房、90頁	2011.1
学会発表(単)	「知的障害児における数概念と均等配分行動の関係」『第22回日本発達心理学会ラウンドテーブル『実験発達心理学ワークショップWS2011』(予稿集)、3頁	2011.3
学会発表(単)	「数概念の発達における知的障害児と通常発達児の相違—通常発達児を対象とした数概念の調査から—」『第49回日本特殊教育学会大会発表論文集』、686頁	2011.9
学会発表(単)	「幼児期におけるカウンティングの発達—知的障害のある子どもと定型発達児の研究から—」『第23回日本発達心理学会ラウンドテーブル『実験発達心理学ワークショップWS2012』	2012.3

	(予稿集)、3頁	
学会発表(単)	「幼児期における数概念の発達と均等配分の関係ー計数との関係に着目してー」『第23回日本発達心理学会大会発表論文集』、155頁	2012.3
学会発表(単)	「幼児期の数概念はどのように発達するのかー均等配分と計数、多少等判断の関係性ー」『第24回日本発達心理学会大会発表論文集』、241頁	2013.3
その他(単)	「〈ここのいま〉を超えた視点の移動ができるようになるまで「人との関係に問題をもつ子どもたち」」『第79回発達臨床研究会雑誌 発達』第137号、ミネルヴァ書房、86-93頁	2014.1
学会発表(単)	「子どもの数概念はどのように発達するのか」『第26回日本発達心理学会大会発表論文集』	2015.3
その他(単)	「学校と勉強と学び」『花園大学人権教育研究センター報』第27号、花園大学人権教育研究センター、52-53頁	2015.4
その他(単)	「生きる営みを支えるということ」『花園大学人権教育研究センター報』第28号、花園大学人権教育研究センター、66-67	2015.12
その他(単)	「文化的営みのちがいに触れる」『花園大学人権教育研究センター報』第29号、花園大学人権教育研究センター、50-51頁	2016.4
その他(単)	「不登校という教育問題と子どもの人権」『花園大学人権研究センター報』第31号、花園大学人権教育研究センター46-47頁	2017.4
その他(単)	「子どもの育つ環境と遊びの変化」『花園大学人権教育研究センター報』第31号、花園大学人権研究教育センター27-28頁	2017.4
学会発表(共)	「知的障害特殊学級の教育課程に関する実態と課題」(牛山道雄)『第45回日本特殊教育学会大会発表論文集』、445頁	2007.9
その他(単)	「心理学の実験から学びを考える」『花園大学人権教育研究センター報』第35号、花園大学人権教育研究センター、36~37頁	2019.4
学会発表(単)	「認知発達におけるデジタルとアナログ(4)ー数量概念の発達ー「数える行為の発達と均等配分の方略」」『第27回日本発達心理学会大会ラウンドテーブル』(第27回日本発達心理学会大会 大会論文集)	2016.4
学会発表(単)	「幼児にとって数えることと数が分かることーサビタイジングの境界を超える数の認識ー」『一般社団法人日本発達心理学会第31回大会 大会発表論文集』、一般社団法人日本発達心理学会	2020.3
その他(単)	「連載 乳幼児における数概念の発達プロセスと障害」雑誌「発達教育」7月号 Vol. 38 No. 7 (465号) 公益財団法人 発達	2019.7

	協会 pp. 18-19	
その他（単）	「連載 乳幼児における数概念の発達プロセスと障害②」雑誌「発達教育」8月号 Vol. 38 No. 8 (466号) 公益財団法人 発達協会 pp. 18-19	2019. 8
その他（単）	「連載 乳幼児における数概念の発達プロセスと障害③」雑誌「発達教育」9月号 Vol. 38 No. 9 (467号) 公益財団法人 発達協会 pp. 18-19	2019. 9
その他（単）	「自分の大切さと他の大切さ」『花園大学人権教育研究センター報』第37号、花園大学人権教育研究センター、34~35頁	
その他（単）	日本学術振興会 研究活動スタート支援「知的障害児の数概念と均等配分の発達—言語能力との関連性を考慮して—」研究代表者（2012年度-2013年度）	
その他（単）	日本学術振興会 若手研究「乳幼児期から幼児期へ接続期の発達における数量認知移行プロセスの検討」研究代表者（2018年度-2020年度）	
その他（単著）	「地域で自立して暮らすことの難しさ」『花園大学人権教育研究センター報』第39号、花園大学人権教育研究センター、40-41頁	2021年4月
その他（単著）	「尊いと感じる心の裏側にあるもの—神武天皇陵・洞部落跡を歩いて—」『花園大学人権教育研究センター報』第39号、花園大学人権教育研究センター、73-74頁	2021年4月
その他	日本学術振興会 基盤研究（C）「数の基本原理獲得期における発達のつまずきと概念変化プロセスの解明」研究代表者（2021年度 - 2023年度）	